

幼稚園だより

令和4年度
9月号



心揺さぶられる経験とは

令和4年9月1日
文京区立湯島幼稚園

園長 前田 宏子

本日から2学期が始まりました。ここ数日は涼しさを感じることができました。虫の音も蝉の鳴き声から秋の虫の声に変わっています。季節が変わったことを感じます。

今年の夏は久しぶりに行動制限のない夏休みとなりました。制限がないとはいえ、様々なことに気を配りながら生活をされていたのではないかと思います。その中でも夏休みだからこそできた経験があったことと思います。子どもたちから話を聞くことを楽しみにしています。

幼児は自分が経験したことを基に遊び始めます。例えば、ママごとは家庭での生活の動きをその子なりになぞらえて、再現しながら遊んでいます。上手にフライパンを振りながら料理をしている子どもはお家の中でフライパンを振りながら料理をした家族を思い浮かべているのだと思います。その姿にあこがれを感じて自分も真似ているのです。キャンプをした子どもが楽しかったことを思い出してバーベキューごっこを始めたり、ホテルに泊まった子どもが積み木を積み上げてホテルごっこをしたりします。虫を捕まえたり飼育したりした子どもは、虫作りをして幼稚園のあちらこちらの壁につけて、その後虫取りを楽しんでいたこともありました。楽しかった直接体験は子どもの記憶の中に残り、再現することを楽しみながら、その活動の中で様々なことを学んでいきます。

子どもは心を揺さぶられる出来事があるとその思いが記憶に残ります。日々の生活の中でこそたくさんの揺さぶられることがあると思います。先にお話をした“フライパンの扱い方”などがまさにそうです。保護者の方にとっては特別なことでなかったとしても、それを見ている子どものまなざしは違っているのです。子どものそばにいる大人は、そのまなざしを感じ取れるように意識して心を研ぎ澄ます必要があるかもしれません。

幼稚園では子どものさながらの生活を大切にして保育を進めていきます。子どもたちが自分の思いを自由に表し、十分に遊ぶことができる環境を用意し、自己充実を感じることができるようしていきます。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。